

小中学校の課外学習モデル構築事業

企業局 経営企画戦略課

事業内容

本事業は、県内の小中学生を対象として、自然エネルギーの活用やダム役割、森林の恩恵に関する理解を促すことを目的として、「川口ダム自然エネルギーミュージアム」を利用した課外学習モデルを構築し、校外学習及び遠足での活用を推進している。また、エシカル消費である「環境に配慮した消費」に、再生可能エネルギーの利用が該当すると考え、本事業を推進している。

実施年度	平成30年度～継続中
予算	補助金1,000千円（各年度）
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	平成30年度・令和元年度：阿南市及び那賀町の小・中学校 令和2年度：徳島県内の小・中学校及び特別支援学校
参加人数	166名（平成30年度） 216名（令和元年度）
宣伝方法	小・中学校の校長会での周知 各学校への訪問



川口ダム見学の様子

事業の特徴・ポイント

- 子どもたちが、川の恵みである水力発電の仕組みを分かりやすく楽しく学ぶことで、自然エネルギー及び科学技術への関心を深め、ダムの役割や森林からの恩恵について理解することを目的としている。
- 各学校がクラス単位以上で実施する校外学習及び遠足で川口ダム自然エネルギーミュージアム等を訪れる場合はバス代の半額を補助金として交付する。

●川口ダム自然エネルギーミュージアムの概要

発電と環境の関わりや、科学技術における未来への関心を高め、自然エネルギーの普及促進、次代の技術者育成に寄与するため、平成28年7月に川口ダム横に整備。

「自然エネルギー」や「デジタルアート」のほか、最先端技術の「コミュニケーションロボット」や「水素燃料自動車」などを実際に「見て」、「触れて」、「感じて」楽しみながら学ぶことができる。

期待される効果

「川口ダム自然エネルギーミュージアム」等を小中学校の環境学習の場として、遠足や出前授業に活用し、自然エネルギーの活用やダムの役割、森林の恩恵に関する理解を促す。

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

水力発電を始めとした自然エネルギー（再生可能エネルギー）と火力発電等を比べて、それぞれのメリット・デメリットを理解した上でどちらを選択していくのかを児童生徒に考えてもらうようにした。

【参加者を増やすための工夫】

- 校長会等で事業の説明を行い、小中学校の遠足、課外学習の場として検討してもらえるよう働き掛けた。
- 令和元年度までは阿南市及び那賀町の小中学校が対象であったが、令和2年度からは県内全ての小中学校及び特別支援学校を対象を広げた。